

国語科（古典探究）学習指導案

指導者

- 1 履修単位数 2 単位
- 2 実施日時 令和7年11月 日（ ） 3 時間目
- 3 学 級 年 組（ 名）
- 4 使用教科書 古典探究（東京書籍）
- 5 単元（題材）名 「宋襄之仁」

6 単元設定の理由

（1）生徒観

学習者は、昨年度までの学習の中で古典の世界に親しむための訓読の決まりについて習得しており、古代の史話や漢詩など本格的な漢文を学習する段階に入っている。しかしながら、漢文世界を理解するための文化や習俗に関する知識の習得や理解についてはまだ課題が残る。授業に積極的に取り組む者が多く、物語が生まれた背景を調べて読解しようとする姿勢があるため、丁寧な導入を行いたい。

（2）教材観

本教材は、『十八史略』に収録される話である。宋という土地の歴史について触れたあと、襄公と目夷のやりとりが描かれ、最後に人々の反応が描かれる、という構成である。「世笑以為宋襄之仁」という箇所を書き入れた筆者の意図について考えさせることで、故事成語が生まれる背景に迫ることができる。比較的平易な文体で書かれているため、国名や文化などを理解することで、より具体的に場面を想像しながら読むことができる教材である。

（3）指導観

春秋時代とはどんな時代か、襄公が国を治める意義とはなにかについての情報は、本文からは得られない。そこで、まずは便覧の補助資料を用いて時代背景について具体的に確認しつつ、襄公が戦いに挑み、勝利することが当時の価値観なら名誉であったことを生徒に理解させる。そうすることで、生徒はある程度方向性をもって本文を読み進めることが可能となり、興味関心や知的好奇心を喚起することにもつながると予想される。

襄公や目夷の言動は詳細に書かれるが、心情は書かれない。言動に着目することで、人物がどのような心理状態にあったかを丁寧に読み取らせたい。また、作者によって襄公と目夷の説話がどのように語られているかを明らかにし、それを通して、この話に込められた作者の思いに迫ることを試みたい。

7 単元の目標

- （1）作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察することができる。〔思考力・判断力・表現力等〕（1）エ
- （2）先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めることができる。〔知識及び技能〕（2）エ

- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。〔学びに向かう力・人間性等〕

8 本單元における言語活動

- ・同じ題材を取り上げた複数の古典の作品や文章を読み比べ、思想や感情などの共通点や相違点について論述したり発表したりする活動。〔思考力・判断力・表現力等〕B(2)イ
- ・往来物や漢文の名句・名言などを読み、社会生活に役立つ知識の文例を集め、それらの現代における意義や価値などについて随筆にまとめる活動。〔思考力・判断力・表現力等〕B(2)キ

9 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。 (2)エ	①作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。(1)エ	①言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。

10 指導と評価の計画(全5時間)

次	学習活動	評価規準・評価方法
第1次 (2時間)	○「宋襄之仁」を読む。(1) ・知っている諺や慣用句を書き出す。 ・登場人物をワークシートに整理する。 ○「宋襄之仁」を読む。(2) ・襄公はなぜ戦いを待ったのか、ワークシートにまとめる。 ・勝敗の結果を理解する。	〔知識・技能〕① 「記述の確認」
第2次 (1時間)	○「兵者詭道也」と「宋襄之仁」の二つを読み比べて共通点と相違点を探し、同じテーマでも様々な考えがあることを知る。(本時)	〔思考・判断・表現〕① 「記述の確認」
第3次 (1時間)	○自分の選んだ故事成語の原典を読む。 ・一覧表の中から自分で一つ故事成語を選ぶ。 ・原典をワークシートに従って読む。 ・「宋襄之仁」との共通点・相違点をワークシートに整理する。	〔思考・判断・表現〕① 「記述の確認」

<p>第4次 (1時間)</p>	<p>○文章を読んで考えたことを整理し、まとめの問い作りを行う。</p> <p>・文章を読んで考えること・思うことをワークシートに書き出す。</p> <p>・さらに追求したい点を整理し、問いの形にまとめる。</p> <p>・問いを一つに絞り、ペアと共有する。</p>	<p>〔主体的に学習に取り組む態度〕①「記述の分析」</p>
----------------------	---	--------------------------------

1 1 本時の目標

- ・「宋襄之仁」と「兵者詭道也」の2作品の共通点や相違点について考えることで、作品同士の時代を超えたつながりや、それぞれの構造を理解することができる。

1 2 本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点	学習活動における具体的な評価規準	評価方法
<p>導入 10分</p>	<p>○「宋襄之仁」の復習をする。</p> <p>○本時の目標を理解する。</p>	<p>○隣の席の人に説明するよう指示する。</p> <p>○本時は「兵者詭道也」と「宋襄之仁」と読み比べることを確認する。</p>		
<p>展開 35分</p>	<p>○「兵者詭道也」を音読する。</p> <p>○内容を整理する。</p> <p>○共通点と相違点をまとめる。</p> <p>○4、5人で班を作り、意見を交換する。</p> <p>○全体で共有する。</p>	<p>○範読後に各自で音読をさせる。</p> <p>○事前に配布した現代語訳をもとに内容を復習する。</p> <p>○出てこなければ「孫子の考えは、襄公と目夷どちらに近いか」や、「構造に注目してみよう。」と問いかける。</p>	<p>「思考・判断・表現」① 作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察すること。</p>	<p>「記述の分析」 ワークシート</p>

まとめ 5分	○本時の振り返りをする。	○本時の範囲で感じたこと、考えたことや疑問に思ったことを書くように指示する。		
-----------	--------------	--	--	--

1 3 評価及び指導の例

「十分満足できる」と判断される状況	・2つの文章の共通点・相違点に着目し、比較した上で筆者の伝えたいことを自分の言葉で表現できている。
「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導・手立て	・教科書の本文や古典常識、文法など、ポイントとなる部分を具体的に示し、二つの作品を読み比べやすいように工夫する。